

**日本原子力発電株式会社東海低レベル放射性廃棄物埋設事業所
前回までの審査会合における指摘事項管理表**

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備 考
1	第190回 (H29.3.17)	資料2	低透水性土壌について、設定値や設定の考え方を説明すること。 (議事録P11,12)	第9条(異常時の放射線障害の防止)の評価パラメータの審査時に説明する予定。	
2	第190回 (H29.3.17)	資料2	地下水流動について、基本的な地下水位の考え方や柱状図など申請書に載っている以外のデータや東海第二発電所の防潮堤の設置も含め説明すること。 (議事録P12～15、P16,17)	水理の審査時に説明する予定。	
3	第190回 (H29.3.17)	資料2	遮水シート及び排水路について、具体的な性能、耐久性、効果を説明すること。 (議事録P17,18)	「資料2 添付資料4 別添1」で説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
4	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	I. 外部事象の網羅性について、管理期間終了後の埋設処分特有の観点から検討し、シナリオで考慮すべき事象を網羅的に抽出し、丁寧に説明すること。 (議事録P36～38)	第9条(異常時の放射線障害の防止)の審査時に説明する予定。	
5	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	I. 外部事象の網羅性の「除外基準」並びに「自然現象の選定理由」、II. 土地利用による人間活動の網羅性の「選定理由」及びIII. 評価すべき事象の選定の「代表シナリオの選定」等について、定量的な説明、数値根拠等の記載を補強すること。 (議事録P41～44)	I. 外部事象の網羅性(自然事象):第6条関連を資料2 別添資料 P7- P41で説明。(H29.12.4) その他は、第9条(異常時の放射線障害の防止)の審査時に説明する予定。	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
6	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	I. 外部事象の網羅性について、津波と洪水の選定結果の相違に関し、考え方を説明すること。 (議事録P42)	「資料2 別添資料P29及びP43～P45」で選定結果の考え方を統一したことを説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
7	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	I. 外部事象の網羅性の除外基準について、そのハザードを感知して排除できるとかではなく、緩慢事象であり、その影響が及ぶまでには十分に減衰している等の理由として整理すること。 (議事録P44～46)	第9条(異常時の放射線障害の防止)の審査時に説明する予定。	
8	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	III. 評価すべき事象の選定について、基本シナリオ、変動シナリオ、自然事象シナリオ、人為事象シナリオの区分の考え方を説明すること。 (議事録P46, 47)	第9条(異常時の放射線障害の防止)の審査時に説明する予定。	

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備 考
9	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	Ⅲ. 評価すべき事象の選定について、自然事象が通常起こり得ない事象であることを説明すること。 (議事録P47, 48)	第9条(異常時の放射線障害の防止)の審査時に説明する予定。	
10	第190回 (H29.3.17)	資料3, 4	外部事象の6条で選定する事象と9条で選定する事象があるが、9条のシナリオ選定については、高レベルや中深度処分の長期の評価と違う部分のシナリオを掘り下げて補強すること。 (議事録P49, 50)	第9条(異常時の放射線障害の防止)の審査時に説明する予定。	
11	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	核種の抽出はORIGENを基に行っているが、線量評価ではJENDLの値を使用しており、整合性のある説明とすること。 (議事録P9, 10)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」P2で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止)
12	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	生成の可能性等の確認結果を基に25核種を除外しているが、除外理由である「生成量が少ない」、「超長半減期核種」について判断基準を具体的に説明すること。 (議事録P11)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」P38第2表で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止)
13	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	スケーリングファクタ法、平均放射能濃度法を用いることの方を説明すること。 (議事録P12, 13)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」参考3で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止)
14	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	CI-36のスケーリングファクタが200となっており、他に比べて大きくなっている根拠を説明すること。 (議事録P14)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」参考3で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止)
15	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	クリアランスの基準値として、法令やIAEAで載っていないものについて、ヨウ素の0.01ではなく0.1を代入している理由を説明すること。 (議事録P17)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」参考1で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止)
16	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	除外された26核種について線量評価が実施されているが、当該26核種の評価に用いた各パラメータの妥当性について根拠を用いて説明すること。 (議事録P18~20)	核種選定関連を「資料1 主要な放射性核種の選定について」P6で説明。(H30.2.27) その他は、第9条(異常時の放射線障害の防止)の審査時に説明する予定。	第9条(異常時の放射線障害の防止)
17	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	選定したシナリオの代表性について、シナリオの内容やパラメータを含め、判断した理由を説明すること。 (議事録P20, 21)	第9条(異常時の放射線障害の防止)の審査時に説明する予定。	
18	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	今回除染効果の考え方を変更しているが、恣意的な印象を与えないために、保守側を見るべきところ／見なくても良いところを明確にし、一貫したロジックで説明すること。 (議事録P23, 24)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」P150第27表で説明。(H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備 考
19	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	ロジックの一貫性を理由に10核種に変更しているが、スケーリングファクタから見ても新たに除外したNiはかなりの量があると思われる。寄与がないというだけで除外してよい理由を説明すること。 (議事録P24, 25)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」参考2で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止)
20	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	海産物摂取の相対重要度について、P22ではC-14が1番目、K-40が2番目に高くなっているが、P23ではトリチウムが2番目になっている理由を説明すること。 (議事録P25)	(第202回資料1-2の誤記)	第9条(異常時の放射線障害の防止)
21	第202回 (H29.6.12)	資料1-2	重要度分類の計算で、 α 核種の子孫核種は考慮されているのか確認すること。 (議事録P27)	「資料1 主要な放射性核種の選定について」P149第26表で説明。 (H30.2.27)	第9条(異常時の放射線障害の防止)
22	第213回 (H29.8.22)	資料1	グレーデッドアプローチのための竜巻によるリスク評価については、施設のクレジットがなくても5mSv以下であることを示すように評価を見直すこと。 (議事録P13)	「資料2 添付資料5 別添2 P9-P27」で説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
23	第213回 (H29.8.22)	資料1	竜巻影響評価へのフジタモデルの適用性を説明すること。 (議事録P14, 15)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
24	第213回 (H29.8.22)	資料1	容器の閉じ込め機能等、附属施設の機能を期待しないことの妥当性を説明すること。 (議事録P18, 19)	「資料2 P1-P4」及び「添付資料1」で説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
25	第213回 (H29.8.22)	資料1	雷に対して避雷針を設置しない理由を、根拠等を用いて説明すること。 (議事録P20)	「資料2 添付資料9」で説明。 (H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
26	第213回 (H29.8.22)	資料1	飛来物からの防護や飛散防止として、周辺からの影響(例:松林の枝)や固縛等の方法も含め説明すること。 (議事録P20, 21)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
27	第213回 (H29.8.22)	資料1	飛散防止に関連するプラスチックシートやフレキシブルコンテナが、竜巻によって破損しないことを説明すること。 (議事録P21)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
28	第213回 (H29.8.22)	資料1	非常に強い風により、砂がどの程度動くのか説明すること。 (議事録P21)	「資料2 添付資料4 P2-P7」で説明。 (H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
29	第213回 (H29.8.22)	資料1	森林火災については、火災影響評価ガイド以外を用いる場合は、評価方法の妥当性を説明すること。 (議事録P22)	次回以降の審査会合で説明する予定。	

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備 考
30	第213回 (H29.8.22)	資料1	飛来物の評価については、衝突したときに壊れない下限値を設定し、その上で固縛等の対策を取るなど、論理を構築すること。 (議事録P23)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
31	第213回 (H29.8.22)	資料1	砂地であることを踏まえ、ひょうによる廃棄物埋設地への影響を説明すること。 (議事録P24)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
32	第213回 (H29.8.22)	資料1	中間覆土について、締固め圧等の定量的な説明をすること。 (議事録P25)	「資料2 添付資料4 P11」で説明。(H29.12.4)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
33	第227回 (H29.12.4)	資料2	廃棄物埋設施設の安全性の確保について、飛散防止も含めて、広い範囲での安全機能の考え方を説明すること。 (議事録P11～17, 58)	「資料3 廃棄物埋設施設へのグレーデッドアプローチの適用について」で説明。(H30.1.29)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
34	第227回 (H29.12.4)	資料2	保全や修繕等の事後のソフト対応について、今後保安規定等で約束してもらうことになるので、頭出しをして、保全を行う条件等を含めて資料に記載すること。 (議事録P39～40)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
35	第227回 (H29.12.4)	資料2	覆土として用いる材料やその特性を説明すること。また、締固めと移行抑制機能、遮蔽の機能との関係を説明すること。 (議事録P41～43)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
36	第227回 (H29.12.4)	資料2	旧原研の透水性の試験結果について、本施設で用いる低透水性として扱えることを説明すること。 (議事録P44)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
37	第227回 (H29.12.4)	資料2	観測記録について、平年値の期間(1981年～2010年)に限定してハザードを設定し影響評価を行っていることの考え方を説明すること。 (議事録P45～48)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
38	第227回 (H29.12.4)	資料2	塩淡境界等も含めた全体的な流動場の変動と埋設施設への影響について説明すること。また、東海第二の防潮堤のルート変更に伴う影響のについても説明すること。 (議事録P51, 52)	水理の審査時に説明する予定。	
39	第228回 (H29.12.25)	資料2	航空機落下について、有視界飛行方式民間航空機の落下確率における小型固定翼機及び小型回転翼機に、堅固な建屋のない廃棄物埋設地に実用炉と同じ0.1を適用できる理由を説明すること。基本的に、廃棄物埋設施設が非保守側になるものは、説明を記載すること。 (議事録P15, 16)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
40	第228回 (H29.12.25)	資料2	全体的なコメントとして、抽象的な記述が多いので、審査ができるように記載を拡充すること。 (議事録P19)	今後の審査資料に反映。	

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備 考
41	第228回 (H29.12.25)	資料2	東海第二のタービンミサイルの影響は関心事項なので、東海第二側のタービンミサイルの評価で、位置的、あるいは方向的に影響がないことを示すこと。 (議事録P19, 20)	次回以降の審査会合で説明する予定。	
42	第229回 (H30.1.29)	資料2	ガンマ線の評価として、11核種から4核種を選んでおけば十分であることの説明資料を追加すること。 (議事録P16)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-9で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
43	第229回 (H30.1.29)	資料2	構内輸送や廃棄物を取り扱っている間のスカイシャイン線に関する評価について、補足資料等で評価を行わなくても問題ないことが分かるようにすること。 (議事録P19)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-6で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
44	第229回 (H30.1.29)	資料2	コードの持つ保守性については、定量的に比較して保守的になっていることを示すこと。 (議事録P20)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-2で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
45	第229回 (H30.1.29)	資料2	埋設済みの区画の隣を掘削した場合の横からの線量評価について、最終評価結果にどの程度の影響を与えるのかを示すこと。また、保安の措置についても合わせて検討すること。 (議事録P21, 22)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-5で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
46	第229回 (H30.1.29)	資料2	評価によってQADとANISNの使い分けを行っている理由等を説明すること。 (議事録P22)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-7で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
47	第229回 (H30.1.29)	資料2	遮蔽の機能に関する安全設計としての設計方針(遮蔽厚、密度等)を記載すること。 (議事録P23)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」PⅡ-3～-5で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
48	第229回 (H30.1.29)	資料2	作業の流れの中で、どういった管理区域(汚染又は線量のみ)が、どのタイミングで設定されるのかをはっきりさせること。 (議事録P 24)	「資料2 規則第8条(遮蔽等)への適合性について」参考-10で説明。 (H30.2.27)	第8条(遮蔽等)
49	第229回 (H30.1.29)	資料3	安全上重要な施設の判断の評価に関して、各外部事象の想定最大のハザードが、今回の事象で包含されることの説明を追加すること。 (議事録P28, 29) 外部事象については、個別事象ごとに妥当性を説明すること。 (議事録P 32)	「資料3 廃棄物埋設施設へのグレーデッドアプローチの適用について」添付資料1で説明。 (H30.2.27)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
50	第229回 (H30.1.29)	資料3	施設を守り切れるとした説明で、追加の防護の有無について説明すること。また、修理での対応もあり得るが、その程度も含めた説明をすること。 (議事録P28～31)	「資料3 廃棄物埋設施設へのグレーデッドアプローチの適用について」添付資料2で説明。 (H30.2.27)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)

番号	審査会合 (開催日)	資料	コメント要旨	対応状況	備 考
51	第229回 (H30.1.29)	資料3	定置作業中と埋設後では状況が全く異なるので、定置段階と保全段階を分けて検討すること。 (議事録P31, 32)	「資料3 廃棄物埋施設へのグレーデッドアプローチの適用について」添付資料2で説明。 (H30.2.27)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
52	第229回 (H30.1.29)	資料3	設計事象で用いるハザードの大きさとして、気象庁の平年値をもとに設定している考え方を説明すること。 (議事録P32)	「資料3 廃棄物埋施設へのグレーデッドアプローチの適用について」添付資料2で説明。 (H30.2.27)	第6条(外部からの衝撃による損傷の防止)
53	第229回 (H30.1.29)	資料3	ソフト対応については、期待する機能や自然現象による影響、その際の対応など、順序立てて説明すること。 (議事録P34, 35)	次回以降の審査会合で説明する予定。	

※ 第231回(H30.2.27)分は、今後記載予定